

令和3年度 学校評価報告書

園名	三田市立松が丘幼稚園
----	------------

1 教育目標

「元気な子 心豊かな子 たくましい子」
 自己を発揮し、のびのびと活動する子を育む
 友だちと思いを伝え合い、心を通わせて遊ぶ子を育む
 自ら考え、工夫し挑戦しようとする子を育む

2 今年度の重点目標

『自分らしさを発揮し、共に育ち合う子の育成』
 ～幼児の思いやりの心を育む、環境構成や援助のあり方を探る～
 学年 4歳児 安心した園生活の中で、友達とかかわり合って遊ぶ楽しさを味わう。
 5歳児 友達と互いに認め合いながら、主体的に遊びや生活を進める楽しさを味わう。

3 総合的な自己評価

幼児一人一人が安心して幼稚園生活を送れるように努め、その上で十分に自己を発揮していけるよう、職員間で連携を図りながら保育を進めることができた。
 幼児の発達する姿に応じた個別の援助を重ねていくことで、幼児が周りの環境や友達の様子に関心をもつようになり、友達と一緒に遊ぶ楽しさを味わうことができた。その中で、相手を思いやる姿や4歳児に優しく寄り添う姿、5歳児に憧れて頼ったり挑戦したりする姿、友達と一緒にやり遂げようとする姿等、共に育ち合う姿が多く見られるようになっていった。
 行事等においては、幼児が主体となって取り組める内容を共に考え、幼児の「やりたい」「楽しい」「見てほしい」という思いを大切に進めていった。その中で、一人一人が自分の考えや思いを表し、それを受け止めてもらえる関係づくりに努めていくことができた。

4 総合的な学校関係者評価

「運動会」「あそびのせかい」の様子を見させていただいた中だけでも、子ども達の幼稚園での日々の楽しさが伝わった。子どもの意欲を尊重して保育を行っていただいている様子が感じられ、歌や体操、行事においても、‘やらされている’感じが全くなく、心から楽しんでいる様子が窺えた。花や野菜の栽培活動を通して食育への取り組みも行われており、子ども達がいきいきと生活できる幼稚園である。
 子ども達の会話の中にも、互いに教え合い、助け合う姿を見ることができた。また、4歳児と5歳児が関わる機会が多く、どちらにとっても良い刺激となっていると感じる。幼稚園で、互いに思いやる心が育まれていることが嬉しく思う。

5 評価結果

自己評価		学校関係者評価		
分野・領域	評価項目(取組内容)	評価結果及び分析	改善の方策	学校関係者評価委員会の意見
教育課程	学びに向かう力を豊かに育む保育内容の工夫 <ul style="list-style-type: none"> ・幼児一人一人が十分に自己を発揮し、友達と協同して遊びを進めていく姿につながる環境や保育の内容、援助の工夫 ・4、5歳児が共に育ち合える交流の工夫 ・幼児一人一人の課題や発達する姿に応じたかかわりや環境構成の工夫 	<ul style="list-style-type: none"> ・入園、進級当初の姿に個人差があり、幼児一人一人の不安な気持ちや楽しみにする気持ちに丁寧に寄り添っていくことに努めた。 ・自ら動き出す姿を捉え、その際の心の動きに注目していった。興味・関心から動き出す姿や、目的をもって動き出す姿、友達と一緒に楽しいと感じる姿や責任感を果たそうとする姿など、様々な育ちを読み取ることができた。 ・4歳児の2学期後半になると、「自分達でやってみよう」という思いが強くなり、5歳児の姿を思い浮かべながら、同じように挑戦したり、失敗しても諦めずに修正したりなど、「自分達でできる」という自信がついてきた。 ・5歳児が昨年の経験を活かす遊びや活動を通して、5歳児としての自信や自分を律する姿につながっていくことが分かった。 ・個別の指導計画を作成しながら、一人一人に応じたかかわりに努めている。一人一人の実態に合わせて、成功体験を積み重ねていけるようにスモールステップを心がけた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・幼児一人一人が安心して生活できるよう、信頼関係をしっかりと築いていきたい。また、幼児の内面理解に努め、目に見える姿だけでなく、見えない心の動きに思いが寄せられるように努め、職員間で共有していきたい。 ・次年度も、4歳児が友達と一緒に動き出せるようになる時期までに、しっかりと自己表出できるようにしていきたい。 ・5歳児から4歳児に受け継がれていく活動を通して、それぞれの思いを大切にしながら進めていきたい。 ・引き続き、幼児の実態や課題を把握し、見直しをもって支えていきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・夏野菜について調べ、友達同士で情報交換をし、自分達で大切に育てようとする活動が良い。 ・遠足では、見たものを園に持ち帰ってみんなで相談することで、‘観察すること’‘物事を調べること’の大切さを、子ども達が自然と意欲的に楽しく取り組めるよう進めていることが伝わった。 ・春、入園したばかりの4歳児が、毎日泣いて登園していたのに、いつの間にか楽しく幼稚園に来る姿を見ると、一人一人に寄り添って保育して下さる先生方のお力に感銘を受ける。 ・幼児が‘やってみよう’と思うような環境づくりの工夫がされている。 ・担当の学年にかかわらず、園全体で子ども達を見守ってくれている。
子育て支援	親と子の交流や育ちの場としての役割、機能の充実 <ul style="list-style-type: none"> ・3歳児プレ保育や園庭開放における活動内容の工夫 ・親と子が安心して集える場や情報発信の工夫 	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍による制限がある中でも、対策をとりながら、園庭開放や園児との交流、絵本の貸し出し等、実施することができた。 ・次年度入園の幼児や地域の就園前の幼児に向けた体験保育を実施することができなかったが、説明会や見学会の際に、個別に相談を受け、保護者同士がつながれる機会とすることができた。幼児同士も顔見知りになり、職員とのつながりもできている。 ・園の様子や、子どもの遊びや育ちの姿などを、ホームページ等で発信することに努めた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・感染状況等により、行事としての園庭開放や体験保育を実施することはできないが、個別のかかわりを通して支援していくことはできる。 ・保護者も子どもも安心して通える場となるように対応していくことが必要である。 ・ホームページの活用を工夫していきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・運動会の‘未就園児の競技’や、幼稚園での園庭開放、園児との交流では、幼い小さな胸に「松が丘幼稚園で遊んだ楽しい思い出」として心に刻まれていたらいいなと思う。 ・行事が中止になる時等に、園外の方へのお知らせがスムーズにできるとよい。
保護者・地域との連携	園運営、園行事への保護者や地域住民の参画 <ul style="list-style-type: none"> ・行事やPTA活動の持ち方を工夫し、保護者同士のつながりや、幼稚園教育への理解を深める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者の理解や協力を得ながら、幼児の主体性を大切に保育・行事を進めていくことができた。 ・「たのしいあそびのせかい」として、幼児が考えて取り組んできたことを発表し、幼児の成長を喜び合うことができた。 ・コロナ禍により、PTA活動ができていない状況であったが、保護者同士で連絡を取り合い、集まらずに進める工夫をすることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き、幼児の主体性を大切にした保育に努め、保護者や地域に向けて発信していきたい。 ・昨年、今年と、地域の方との交流ができなかったため、これまでのつながりが薄くなってきている。内容を見直し、交流の方法を工夫していきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・幼稚園からのお手紙やホームページを通して、子ども達の成長を分かりやすく発信されていた。 ・コロナ禍で保育参観の回数が減り、園内の様子を窺う機会が少なかったが、行事では園児の張りきっている姿を間近で見ることができ、親子で楽しむことができた。 ・降園時に、その日の保育内容や子どもの姿を伝えてくれ、様子が分かり安心できた。
学校園所連携	保幼小中連携の推進と小学校との円滑な接続をめざした取り組みの推進 <ul style="list-style-type: none"> ・幼小の様々な交流機会や職員連携の工夫 ・中学校区連携推進への参画 	<ul style="list-style-type: none"> ・隣接する小学校との連携は、教職員同士が、幼児や児童の姿や学びを共通理解できるよう、保育や授業を見合う機会をつくることができた。 ・小学校進級に向けて、学校生活の様子をビデオで紹介したり、運動場で遊ばせてもらったりなど、幼児が安心して、期待がふくらむように進めることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・幼児も児童も楽しみにしている‘なかよしタイム’や、各学年との交流を、状況をみながら進めていけるように計画していきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童との交流機会は、年上の人に慣れたり親しんだり顔見知りになったりと、小学校への期待や安心感につながっている。 ・なかよしタイムのおかげで、入学に対しての不安よりも期待の方が圧倒的に大きい様子である。

				・小学校への連携ができているので、安心して進学に向かうことができる。
研修 (資質向上 の取組)	幼児の内面理解につながる研修の工夫 ・遊びや生活の中における幼児の姿を通して、幼児の内面を多角的に読み取る ・職員間でカンファレンスを繰り返し、援助のあり方を探る	・保育の中で‘幼児が楽しんでいる姿’や‘幼児の気になる姿’‘友達とかかわっている姿’等を取り上げ、職員間で幼児の心の動きを読み取っていくことに努めた。 ・幼児の興味、関心に寄り添い、幼児の意欲や好奇心、相手への思いやりや社会性、自己肯定感や自信につながっていくよう、援助していくことに努めた。	・引き続き、職員間での対話を重ねながら幼児理解に努め、よりよい環境づくりや援助のあり方について考えていきたい。	・4歳児の一年、5歳児の二年間で、とても落ち着きすくすく成長されていると感じる。先生方に培っていただいた土台を大切に、進級、入学後もさらに頼もしく成長されることを期待している。 ・少人数ということもあり、一人一人にしっかりと対応することができている。